

2016年3月13日(日)朝10:10~  
3月第2公同主日礼拝式説教

受難節・四旬節第5、役員会等  
日本アライアンス庄原基督教会

## 説教題：罪の赦し

聖書：コロサイ 2章8~15節

<口語訳>

新約聖書316頁

コロサイ 2章8~158節

<新共同訳>

新約聖書370頁

コロサイ 2章8~15節

<新改訳第3版>

新約聖書391~392頁

コロサイ 2章8~15節<塚本訳>

新約聖書636~637頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

## 序論；

- ◇コロサイ書は、パウロが、エパフラスが相談に来たが、逮捕され、テキコを書簡とともに派遣したもので、エペソ書、ピリピ書、ピレモン書等と同様ローマの獄中から送られました。中心使信は、「(御子は)とからだなる教会のかしらである」(1:18)です。
- ◇コロサイ書2章8～15節では、キリスト・イエス様の本質的姿を1:15～2:7までで描き、侵入して来た異端に言及、3:4～4:6で実生活への教えを語る、という構成の挿入箇所であると、OR師は要約されています。  
⇒パウロは、神の御子、主キリスト・イエス様が、「神が、(ご自身の)すべての満ちた徳を宿らせた」お方であることを語り、「違反の罪・咎を赦し、キリストの勝利の凱旋の列」に加え、「キリスト・イエスとの生活」を保証しておられると語っています。
- ⇒コロサイ教会には、①割礼、②天使礼拝、③禁欲主義、④空しいだましごとの哲学が入り込み、教会を混乱させていました。

本論；

◆本日、コロサイ書2章8～15節から主の使信に思い・心をとめます。

◆コロサイ2章8～10節；パウロは、キリストの内に神が満ちておられることを語りました。

◆8～15節；塚本訳◆十字架により「元素（自然の精）」の支配を脱して(のがれて)救われた

「8 注意せよ、(いわゆる)哲学、すなわち空しい欺瞞をもって君達を奪い去る者があるかも知れない。この(人達の言う)哲学は(如何に巧みな説明があるにせよ、要するに)人間の言い伝えに拠るものであり、(地水火風というような)此世の元素の靈に拠るものであって、キリストに拠らないものである。

9 (君達はこんなものに惑わされず、ただキリストに拠れ。)何故なら、彼の中には豊満なる神性が悉く形体を取って宿って居り、

10 君達は彼によってこの豊満に与る者とされたのであるから—彼は凡ての(天使達、すなわち)「權威」、「權力」(等)の頭であり

**給う**と、パウロは語っています。

◇8～10節；「空しい欺瞞をもって君達を奪い去る哲学」は、「此世の元素の靈に拠るものであって、キリストに拠らないものである」、「彼の中」には、「豊満なる神性が悉く形体を取って宿って居り」、「彼が、君達は彼によってこの豊満に与る者とされた」、「彼は、權威、權力(等)の頭であり給う」「注意せよ」と、パウロは語っています。

⇒「空しい欺瞞をもって君達を奪い去る哲学」は、人間の知恵を**神の知恵**の上におき、人間の知恵を極めようとしますので、**神の知恵**を求めず、「神のすべての知恵・恵みが満ちて宿つておられるキリスト・イエス様」から心の目をそらすように誘惑する思想となりました。

⇒今日では、学歴、職歴、財力など優先による人間哲学が優位となっています。

⇒この**生活の基本**は、最初の人、アダムとエバが、「園の中央にある木の実を取つて食べてはならない」との**神の律法**に違反し、神に逆らう実生活でも、**神に服従する良心**でも、**神の律法への違反**の繰返しにあります。

◆コロサイ2章11～12節；パウロは、キリストの割礼・洗礼によって神によるキリストの復活の恵みに与っていることを語りました。

◇8～15節；塚本訳◆十字架により「元素（自然の精）」の支配を脱して(のがれて)救われた

「11 君達はまた彼において手にてせざる(眞の)割礼、すなわち(モーセ律法によりただ体の一部に施すものでなく、)肉の体を(悉く)脱ぎ去るキリストの割礼によって割礼された。

12 (然り、キリストの)洗礼(こそ眞の割礼であって、君達はこれ)によって彼と共に(死んで)葬られ(たのである。そして)また彼を死人の中から甦らせ給うた神の力を信ずることによって、彼に於て共に甦ったのである」と、パウロは語っています。

◇11～12節；「肉の体を(悉く)脱ぎ去るキリストの割礼」、「手にてせざる(眞の)割礼」、「(キリストの)洗礼(こそ眞の割礼であって、君達はこれ)によって彼と共に(死んで)葬られ(たのである)」、「彼を死人の中から甦らせ給うた神

の力を信ずることによって、彼に於て共に甦った」と、パウロは語っています。

⇒「キリスト・イエス」は、「彼の中には豊満なる神性が悉く形体を取って宿って居り」、「(キリストの)洗礼(こそ真の割礼であって、君達はこれ)によって彼と共に(死んで)葬られ(たのである)」、「彼を死人の中から甦らせ給うた神の力を信ずることによって、彼に於て共に甦った」と、パウロは、(キリストの)洗礼=真の割礼、心の割礼というメッセージを与えます。

⇒「肉の体」(11)は、「人間の本性のことで、アダムにあって墮落した人間の姿」せすと、OR師は、説き明かしておられます。

⇒ガラテヤ書2:20の「わたしはもはや生きていない。キリストがわたしの中に生きておられる。いまわたしが肉体で生きるのは、わたしを愛し、このわたしのために自分をすてられた神の子を信ずる信仰によって生きているのである」と同じ使信です。

⇒申命記10:16では、「それゆえ、あなたがたは心に割礼をおこない、もはや強情であってはならない」と、心の割礼に言及しています。

◆コロサイ2章13～15節；パウロは、キリストの勝利の凱旋に神の律法違反の罪が赦された者が連なれる恵みを語りました。

◇8～15節；塚本訳◆十字架により「元素（自然の精）」の支配を脱して(のがれて)救われた

「13（異教人たる）君達は（前には）咎と肉に割礼無きこととの故に死んだ者であったが、神は私達の凡ての咎を赦して、君達をもキリストと共に生かし給うた。

14 すなわち（厳しい）規則をもって私達に敵し私達を責める証文（すなわちモーセ律法）に棒を引き、これを十字架に釘づけて取り除き給うた。

15 かくて（また）「權威」と「權力」とに武装を解かせて公然（これを）曝しものにし、キリストに於て彼らを捕虜として凱旋行列に引き廻し給うたのである」と、パウロは語っています。

◇13～15節；「（厳しい）規則をもって私達に敵し私達を責める証文（すなわちモーセ律法）に棒を引き、これを十字架に釘づけて

取り除き給うた」、「(敵した者)の**権威**と**権力**とに武装を解かせて公然(これを)曝しものにし、キリストに於て彼らを捕虜として凱旋行列に引き廻し給うた」と、パウロは語っています。

⇒OR師は、「神に敵させる者」を「**悪魔**」としておられます。

⇒「**捕虜**として凱旋行列」に加えられるのは、敵した**悪魔**としても、「**肉の体・罪の人間性**」も、「**十字架に釘づけて取り除き給うた**」のです。

⇒「**十字架に釘づけて取り除き給うた**」ことによつて、「(異教人たる)君達は(前には)咎と肉に割礼無きこととの故に死んだ者であったが、神は私達の凡ての咎を赦して、君達をもキリストと共に生かし給うた」(13)のです。

⇒「**肉の体**」は、悪であるとのグノーシス派の2元論的哲学思想が、コロサイ教会を支配し、**神信仰**から引き離そうとし、**天使礼拝**が、**神の権威**を軽んじ、**神信仰**の**神本質**である**神服従**が無視される状態になったです。

⇒今日の教会も、律法主義や空しく欺瞞に満ちた人間哲学を排し、「**甦りの主と共に生きる神礼拝の恵み**」を喜びたいと願います。

## 結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇コロサイ書は、パウロが、エパフラスが相談に来たが、逮捕され、テキコを書簡とともに派遣したもので、エペソ書、ピリピ書、ピレモン書等と同様ローマの獄中から送られました。中心使信は、「(御子は)とからだなる教会のかしらである」(1:18)です。
- ◇コロサイ書2章8～15節では、キリスト・イエス様の本質的姿を1:15～2:7までで描き、侵入して來た異端に言及、3:4～4:6で実生活への教えを語る、という構成の插入箇所であると、OR師は要約されています。  
⇒「肉の体」=「神に反逆したアダム以来の罪の人間性」は、「十字架に釘づけて取り除き給うた」、「私たちの中には豊満なる神性が悉く形体を取って宿って居り」、「彼・キリストによってこの豊満に与る者とされた」のです。
- ⇒この神は、「真の割礼」=「キリスト・イエスの洗礼」により、「神の御子キリスト・イエス様の信仰」によって与えられたのです。感謝！！